

日本国際理解教育学会 研究・実践委員会

公開研究会

- 日 時 : 2015年4月11日 13:00~16:00
- 場 所 : 早稲田大学戸山キャンパス 33号棟 16階第10会議室
(東京メトロ東西線早稲田駅 徒歩3分)
- テ ー マ : 「地域実践からみる実践研究の必要性と方向性」
- 実践事例報告者 : 村田敦史 (武蔵野市国際交流協会)
三田善雄 (みた農園、フードバンク岡山)
磯野昌子 (逗子フェアトレードタウンの会)
- 話題提供者 : 南雲勇多 (早稲田大学大学院)
- コーディネーター : 山西優二 (早稲田大学)

ね ら い : 2014年度の日本国際理解教育学会研究大会の特定課題研究「国際理解教育における実践研究の視座」では、「地域事例にみる実践研究」として、MIA(武蔵野市国際交流協会)の国際理解関連活動を試行的に読み解く中で、その視点として、相互に関連し合う以下の5点が提示されています。

①「課題設定に基づく学びの循環」、②「地域の機能・リソースの活用」、③「実践をつなぐネットワーク」、④「実践研究コミュニティづくり」、⑤「コーディネーターの役割」

これらの試行的に示された「地域事例にみる実践研究の視点」は、学校教育実践を軸とした実践研究が示す視点とは少し異なり、地域における協働性の中の課題・必然性と学びを軸に据えた実践研究の方向性を探ろうとしたものです。つまり、学習者にとっての学びを個人的な知識・技能などの獲得としてのみ捉えるのではなく、その学習者の地域や地域課題の捉え方・参加の仕方が協働性の中でどのように変化しているのか、また指導者やコーディネーターは、地域のどのようなリソースを活用し、どのような学びをデザインし、その学びを循環させようとしているのか、といった点への着目です。

今回の公開研究会では、地域課題に即した実践が展開されつつも、実践研究という点に関してこれまで十分には意識化されてこなかったMIAを含む3地域の実践事例を実践者がそれぞれの経験をもとに紹介しつつ、また状況的学習や変容的学習など様々な学習論に関する話題提供もはさみながら、「地域実践からみる実践研究の必要性とその方向性」について、上記の5視点を吟味した新たな視点を加えながら、参加者間で検討し合うことをねらいとします。

奮ってのご参加をお願いします。

参 加 : 当日の直接参加も可能ですが、会場の準備の都合上、事前に以下の連絡先まで、参加希望(ご氏名・ご所属)をお知らせ下さると幸いです。

連絡先: yyuji@waseda.jp

以上